



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

総力 特集

中国・四国ブロック主催「豊島見学会」

2月13日、中国・四国ブロックは豊島問題(※)で知られた豊島の見学会を開催しました。この見学会には、ブロック内の会員をはじめ、本部から酒井代表理事や木内副代表理事も参加しました。

今号では、この「豊島見学会」を総力特集します。

開催概要

- 開催日: 2017年2月13日(月) ■参加者: ELV機構会員13名
- 見学先: 豊島／香川県小豆郡土庄町



(※)用語解説
てしまもんだい

豊島問題

かつて豊島はその名のとおり、自然豊かな島でした。しかし、1975年に土地を所有する業者から香川県に有害産業廃棄物処理許可申請が出されたことを機に問題が始まります。

住民は激しく反対したものの、1978年、香川県は業者に産業廃棄物処理業の許可を出しました。そこから10年以上もの間、豊島には大量の有害産業廃棄物が不法投棄され続けました。

1990年、兵庫県警の摘発により問題が発覚、翌年に業者は逮捕されましたが、あとには50万トンにも及ぶ有害廃棄物が残され、その処理作業は今もなお続いています。

▲写真解説:

豊島から見える美しい瀬戸内海(写真上)、その一方で未だ豊島に埋められた廃棄物の掘削作業は続いている(写真下)

目次

巻頭言 1

総力特集

中四国主催 豊島見学会 ... 1

JIS開発事業報告 4

自動車リサイクルサミット ... 5

「ちょっとした工夫」募集 ... 5

ブロック会議報告 6

3月号特別コラム

東日本大震災を振り返って... 6

メーカー提供記事【日野】... 7

鉄スクラップ最新情報 8

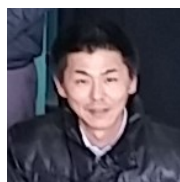
行事予定・お知らせ 9

編集後記 9

巻頭言

現在、ELV機構は会員の皆様が自社で行っている「ちょっとした工夫」の事例を募集しています。詳細は本記事の5ページをご覧くださいと思いますが、個人的にはグーグルマップのストリートビュー機能がお勧めです。個人宅に伺う時に道幅が狭いかどうか事前に確認することが可能です。また、キーボードで、Ctrl+C(コピー)、Ctrl+V(貼り付け)、Ctrl+X(切り取り)などのショートカットキーを使うと、慣れてくればマウスを使うよりも時間短縮になります。皆でアイデアを出し合って、少しでも業界が良くなるといいですね。
(広報部会 小宮山 敬仁)

主催者の想い ― ブロック長・副ブロック長よりご寄稿いただきました！



「中国・四国ブロック長として、豊島見学会に参加して」

中国・四国ブロック ブロック長 岸本 恭秀

去る2月13日、酒井代表をはじめとするELV会員13名で以前から声がありました香川県にある豊島の不法投棄現場の中間処理施設に見学に行きました。「豊島問題」という言葉は聞いた事があるかもしれませんが。私自身も聞いた事があり、これが基で各種リサイクル法が施行される事になったという程度の認識がありました。

今回は、中四国ブロック有志の実行委員会としてホスト役となりましたが、私自身は実際に現地に向かうまでは少々遠足気分だった気がします。しかし、実際に現場を見て、この問題をガイドの石井氏から聞くうちに、近隣に住まう者として、リサイクル業に携わる者として、この問題を軽い気持ちで捉えていた事を猛省しました。(ノ)

この問題は1975年から始まり42年、もう少しではありますが、まだ解決をしておりません。単に不法投棄のごみを後から処理する代償はとてつもなく大きいという事だけではなく、そこに生きる人々や関わる方々の様々な思いや向き合い方があり、大量生産大量消費の世の中、循環型社会の在り方の原点があると言っても過言ではないと思いました。

豊島では様々な経験を経て、循環型社会の本質、自然環境との調和を考えておりました。これから諸外国でも同様の問題が起こりかねません。私達に出来るのは地球市民として、リサイクルに携わる者として、この教訓を少しでも今後に活かすことだと感じました。この様な機会を与えてくださった古谷実行委員長をはじめとする皆様方には心より感謝申し上げます。



「豊島見学会を企画した想い、まだ豊島に行かれていない皆様へ」

中国・四国ブロック 副ブロック長 古谷 一夫

今から2年前、経済産業局自動車課のご担当者様より豊島見学のご希望があり、当時、中四国ブロック長だった私に「ブロック長として同行してもらえないか」との連絡がありました。私は心中で“豊島ね、知ってるよ、自動車リサイクル法の発端となったところだよ、もう問題も終わってるんでしょ？今更行っても……”という具合で、決して関心が高かったとは言えず、ブロック長の役目として行く事に決めて同行しました。

2年前の見学の際は、豊島住民の安岐正三さんにご案内いただきました。車で移動中に「当時このあたりは……」と説明が始まり、豊島事件の記録や処理方法に関するビデオを見て、廃棄物を直島に運ぶまでの豊島での処理、仕分けの現場、プラントを見学しました。資料館では、豊島事件と闘ってきた住民の方々の想い ― 解決への希望の光、裏切り、絶望、それでも諦めず、幾度もの希望と絶望の繰り返し ― 色々なお話を聞き、そのとき初めて豊島の事件の全容を知りました。どう表現したら良いのかわかりませんが、とにかく涙を堪えるので必死でした。結局、私は豊島の事を何も知ってはいなかった、住民の方々の戦いがまだ終わっていないという事も。(ノ)

見学終了後、豊島にあまり興味のなかった私の考えは180度変わりました。一緒に見学した経済産業省の方より「自分達で色々と考えてみては？」というアドバイスもいただき、この見学の経験を活かすという事だと感じました。

今回の見学会での豊島住民の石井亨さんのお話によると、プラントと資料館の展示物の一部、個人的には絶対に残しておいてほしい展示品も最終的には処理されて無くなってしまうようです。最後の水処理だけはあと十数年はかかるとのことでした。

今回の見学会には十数名の参加があり、皆さんの何とも言えない思いも私には感じられました。岸本ブロック長をはじめ、皆様のご協力で「豊島見学会」が実施出来た事は本当に良かったと思っています。

豊島の見学は、“見る”“聞く”“感じる”“考えさせる”が多く、何処を見て何を聞いてもらいたいのかわかれても答えることが出来ません。皆さんには、実際に行って、見て、聞いて、感じてもらいたいです。まだ行かれたことのない皆様にも是非、いや、必ず、早いうちに一度は行ってもらいたいです。

参加者の想い ―― 参加者の皆様より感想コメントをいただきました！

- 私たちが知らない長い歴史と、住民の方々の苦しみと努力に、見学の最後には言葉では言えない重苦しさを
感じました。
―― 株式会社シーパーツ 吉川 日生 様
- 我々の業界にとって、身近な問題でありながら今回初めて豊島を訪問しました。長い間、住民の葛藤の末に、
問題解決に至った経緯は現在の自動車リサイクル法等の施行により、賞賛に値すると思います。改めて業界
における責任を痛感しました。
―― 有限会社成本商店 成本 晃一 様
- ガイドをしていただいた方の説明が非常に解りやすく豊島問題を聞くことが出来ました。訴訟から判決までの
道のりは聞いていて感動の嵐でした。渦中での島民の結束力・忍耐力・モチベーションの維持……こんなこと
が出来るのかと思いました。島民だけではなく世論も巻き込みながら判決まで至った、素直にかっこいいと
思いました。仮にELV機構も豊島のように強い結束力を持って進むことが出来れば業界全体がより良い方向
に向かっていくはずです。
―― 有限会社佐々木商店 佐々木 健二 様
- 実際に住民で団結して戦った話を聞くことが出来たのですごく良かったです。出来れば講演会など企画して
皆様にお聞かせできればと思いました。
―― 株式会社カーリユース 栗田 憲志 様
- 今までに豊島事件として新聞や報道などで内容は知っていましたが、この度豊島に足を運び、実際に目で見て、
現地で話を聞いた内容は過去に「豊島事件」として認識してた事より遥かに超えた規模と知りました。住民の
訴えに県の対応の悪さ、現在では考えられない事実も知り、復興までの長い年月と莫大な費用を費やした
現在の豊島の姿を見てきました。私も産廃処理に関わる者として、不適切な処理及び大気・水質汚染を招く
行為をしない、させないと強く決意しました。
―― 有限会社UPF 杉谷 孝志 様
- 現地に赴き当事者の生の声を聴くのは大切なことだと思います。全国報道がされた後、島を挙げての多大な
ご尽力があり平成12年に撤去作業が開始されたことも知りました。又、作業完了後は元の緑地に戻す予定だ
というお考えに感慨を受けました。
―― 有限会社アールシステムズ 佐藤 嘉晃 様
- 今回見学した豊島は近年、美しい瀬戸内、芸術の島として知られてもいますが、一方で不法投棄された産廃
の処理、汚染拡大、拡散の防止に大変な費用と労力が費やされ、自然の原状回復は未だ完了しておらず、
現行の産廃物取扱いに関する法制度の厳しさを肯定・納得させる事例です。豊島見学では許可権者である
行政が正しく機能し、企業はコンプライアンス意識を持って業を営むという当たり前の事を疎かにしてはなら
ないと感じました。豊島汚染処理事業推進率約96%の現在、私共はこの事例を心に留め置き、末々へ語り
継ぐ役目を負ったのだと感じました。
―― 丸本鋼材株式会社 沖本 賢 様
- 豊島問題は業界では非常によく知られた事件です。色々な資料なども目にしていたことからそこそこ理解して
いるという感覚だったのですが、問題が始まってから半世紀近く今に至るまでに、どれだけの長い時間と多くの
人の努力が必要だったかわかっていませんでした。金に目がくらんだ業者と怠慢な行政が起こしたこの事件
の結果を、決して忘れてはいけなと感じました。 ―― 日本ELVリサイクル機構 代表理事 酒井 康雄
- 豊島問題が全島民をあげての、40数年もの長きに渡る、県を相手にした権力との闘争、また県民・国民の環境
意識を変革する、壮絶な民衆運動であったことを知り、大変驚き、自身の環境保全・改善への決意を深めま
した。
―― 日本ELVリサイクル機構 副代表理事 木内 雅之
- 工場見学や資料館の類は得てして気楽に参加しがちですね。1時間以上並んだオランダの「アンネ・フラ
ンクの家」でも感傷に浸ることはできませんでしたが、豊島の見学会は知覧の特攻平和会館以来の衝撃
でした。
―― 日本ELVリサイクル機構 事務局 金子 靖史

経産省受託JIS開発事業が終了、TS原案を提出

ELV機構では、平成27年度より「自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発」というテーマで経済産業省高機能JIS等整備事業を2年度にわたって実施してきましたが、去る2月末日をもって事業が終了しました。JIS原案の提出には一歩及びみませんでした。JIS化につながるTS^(※)原案の策定・提出を行いましたので、その経緯について、以下のとおり報告します。

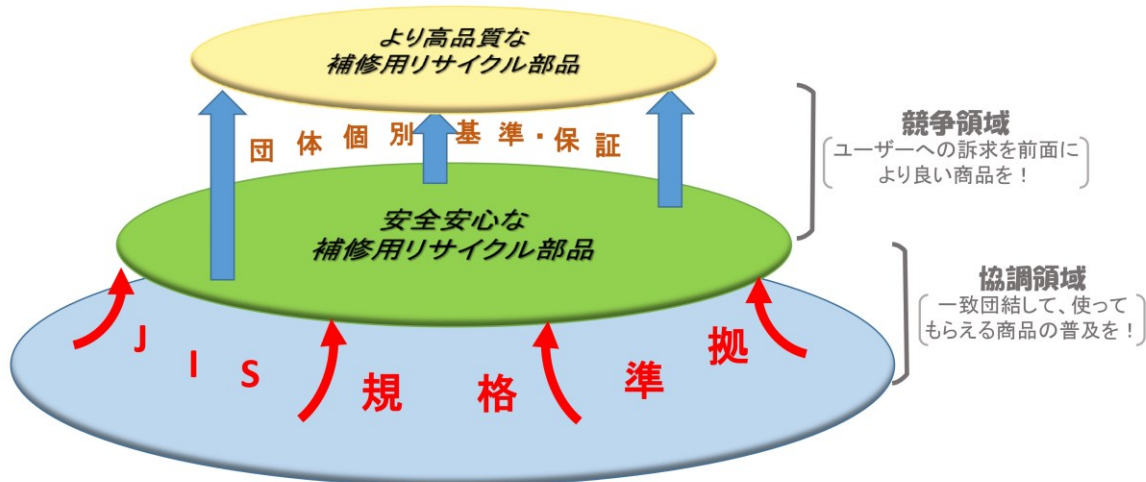
規格策定の目的

- 自動車ユーザー等にリサイクル部品を安全で安心して利用してもらうこと
- リサイクル部品の利活用を拡大し、リサイクルに貢献すること

規格の内容・方向性

事業開始当初は、各部品流通ネットワークの団体基準等を考慮しつつリサイクル部品全体を網羅できる、野菜などの原産地証明のような規格(下図参照)を目指していました。しかし、検討を進めるにしたがって、リユース部品・リビルト部品・乗用車用・貨物自動車用などさまざまな要素が関連してくるため、全体を網羅したJIS化は難しいということが判明しました。これを受け、あらためて規格の方向性を定め、「自動車補修用リユース部品ラベリング及び軽自動車・小型普通乗用車に適用する」という範囲での開発を進めてきました。

JIS規格と各団体基準の位置付け



- 流通する全ての補修用リサイクル部品が、JIS規格に準拠することにより、ユーザーの使用する機会と意欲が増し、幅広い普及が期待できる
- 安全安心をベースに、各団体の品質基準や保証制度をプラスすることにより、ユーザーの利便性(高品質など)を競争力に更なる普及を目指す

事業結果

業界内外からの協力を得て、部品の状態を表す統一的な表現方法や使用年数に対するエビデンス手法確立の目的は立ったものの、JIS化に向けては「リユース部品の確認方法と判断基準は業界で統一したものにすること」という追加で出された課題に対し、業界内のコンセンサスを事業期間内に得ることが困難となり、本事業としてはJIS原案の提出を断念、TS/タイプI原案の提出という結果となりました。

しかし、これまでの議論内容や業界団体の理解の広がりなどをふまえると、リサイクル部品のラベリング規格のJIS化の必要性は高いものと考えられるため、課題解決のための議論を継続し、本事業にて策定した規格をベースに業界標準として試験運用を実施するなどして、将来的なJIS化に向けた取り組みを行う予定です。

(※)用語解説

Technical Specifications

TS:標準作業書

日本工業標準調査会の審議において、JIS制定へのコンセンサスが得られなかったが、将来JIS制定の可能性があると判断され、公表される標準文書のこと。

TSには、2つのタイプがあり、本事業ではタイプIの原案を提出しました。

■TS/タイプI

JIS制定への必要なコンセンサスが得られなかったが、将来、JIS制定への可能性がある標準文書。

■TS/タイプII

技術的に発展途上にあるなど、現時点では困難であるが、将来、JIS制定への可能性がある標準文書。

上記のとおり、タイプIとIIの違いは、現時点でのJIS制定に至らない理由(コンセンサスの問題か技術面の問題か)です。

なお、TSは、発行後3年以内にJISとするか、更に3年延長するか、又は廃止するかの見直しを行う必要があり、延長は、原則として1回限りです。

ELV機構代表理事がパネリストとしてサミット参加



[※参加者である石上副代表理事からの寄稿]

2/4、都内ホテルにて日刊自の主催で第3回自動車リサイクルサミットが開催された。業界15団体が参加し、更に日車協副会長、日整連事務局長、経産省 保坂室長、環境省 泉室長補佐の参加を得て、過去最大の規模となった。

我がELV機構を始め、中古部品流通、トラック系、リビルト系などそれぞれの団体のかかえる問題や今後の展望を発表し合った。多くの団体が、廃車発生の減少と共に会員数の減少も問題として挙げていた。

中古部品については利用者である日車協、日整連共に利用が増えている実感があり、今後も拡大していくと思われるという意見を頂き、業界の今後に明るさを感じる場面も有った。

ELV機構の活動の中で、ELV機構の要望・提案に対して業界としての意見という許可業者総数に対するELV機構会員数の問題が壁になる事が有ったが、行政との質問等の中から「ここに集まった15団体の連名による要望書が提出された場合は業界の意見として受けてもらえるか？」という問いに、「その場合は業界の総意として受け止める」という回答が有った。今迄業界の総意の表わし方に苦慮していたので、大きな扉が開いた思いがした。その後、懇親会が開催され、さらなる意見交換が行われて閉会した。

(日本ELVリサイクル機構 副代表理事 石上 剛)

各事業所で行っている「ちょっとした工夫（ベストプラクティス）」の情報を募集

みなさんのちょっとした工夫、教えてください！

現在、ELV機構は各事業所で行っている「ちょっとした工夫（ベストプラクティス）」の情報を募集しています。ご自身からすればほんの些細なことでも、他の人からみれば画期的なアイデアかもしれません！ぜひ以下の内容をご確認のうえ、情報提供のご協力をお願いいたします。

※詳細はこちら → <https://goo.gl/rFgaE4>

目 的

各事業所の優れた取り組みを共有・発信し、自動車リサイクルのレベル向上を図ること
→ 具体的には、定期社員総会での表彰や自動車リサイクル士制度認定講習会の資料への活用などを検討しています。

情報提供方法

以下のフォーマットにご記入のうえ、ELV機構事務局(jaera-homepage@elv.or.jp)までお送りください。

■Excel : <https://goo.gl/qjgkny>

■PDF : <https://goo.gl/lkOQHn>

▼ちょっとした工夫（ベストプラクティス）記入例

※記入例のように写真を添付していただくと、内容がわかりやすく助かります

ちょっとした工夫報告書					
ブロック	☐	北海道	☐	東北	☒ 関東
	☐	中部・北陸	☐	近畿	☐ 中国・四国
	☐	九州	☐	沖縄	
テーマ	☒	作業効率	☐	安全	☐ 組織の活性化
項目	トリアージ札を使って情報伝達をスムーズにする				
概要					
1. 入庫時点でトリアージ札を室内のルームミラーにかける。この時点では車両はまだ預かりの状態である。 2. 入庫記録を取り終えたら赤を切る。損保から処理OKの連絡が来るまでこの状態で保管する。 3. 処理OKの連絡が来たらフロン回収後、黄を切り取る。緑のみになったら部品取りへ回す。					
※効果※ 車両が今、どの段階にあるのか、どの従業員にも一目で分かる。					

全国各地でブロック会議を開催

月 日	内 容	場 所
2月10日（金）	沖縄ブロック会議	デイゴホテル （沖縄県沖縄市）
2月14日（火）	中国・四国ブロック会議	みのるガーデン （岡山県岡山市）
2月17日（金）	東北ブロック会議	パレスへいあん （宮城県仙台市）
2月17日（金）	近畿ブロック会議	ユーズツウ （大阪府大阪市）

[主な内容]

■本部報告

- ・自動車リサイクル士
- ・共同出荷事業
- ・その他

■ブロック活動

- ・各事業所のちょっとした工夫
（ベストプラクティス）の発表
- ・来年度活動計画の検討

……など

ELV機構は、2月に沖縄／中国・四国／東北／近畿の4ブロックでブロック会議を開催しました。

本部からは、中国・四国ブロック会議に酒井代表理事と事務局金子、東北ブロック会議に事務局金子、近畿ブロック会議に酒井代表理事と奥野事務局長が参加しました。

来月3月には、9日に関東ブロック会議、13日に中部・北陸ブロック会議を開催する予定です。

3月号特別コラム：東日本大震災を振り返って 「福島からみた6年前のあの日、そして現在」

今年も何かと話題に事欠かない毎日である。

中でも横綱昇進を果たした稀勢の里のニュースは日本人なら誰しもが喜んだ話題の一つだろう。なにせ日本出身力士では66代横綱若乃花以来19年ぶりに誕生した横綱だ。日本中が待ちに待った横綱である、相撲界に燦然と輝く大横綱になってもらいたいものだ。

若乃花が横綱になってからもう19年。毎日の生活に追われて気が付けば、あの忘れもしない東日本大震災もすでに発生から6年になろうとしている。

折しも、昨年11月22日午前5時59分頃に震度5弱の地震が福島県沖で発生した。余震や津波の心配をしながら「またか」と不安を覚えた。

6年前の震災直後ほとんどのライフラインが寸断され、工場はもちろん、商店やスーパーなどは休業、ほんの一部のファーストフード店は営業していたものの、町中の時間が止まったような有様だった。一番驚いたことは、コンビニも休業していたことだ。知りうる限りコンビニが閉店や改装以外で休業しているのは見たことがなかったからだ。それでも2日後にはコンビニもスーパーも営業が再開され日常生活も戻るのかと思えたが、どこのコンビニ、スーパーに行っても店は開いているものの、棚には商品、特に食べ物に関しては(？)

何もない状況であった。交通網の寸断で物資が入ってこなかったのだ。鉄道も道路も使えないとこうなるのかと改めて交通網の大切さを痛感した。

金曜日に震災が起きたため、土曜日と日曜日は余震の恐怖と戦いながら家の片付けをし、月曜日から会社へ出勤した訳だが、驚くことに、ガソリンスタンドへ行ってもガソリン、軽油を売ってもらえないことになっていた。やはり陸路での輸送ができない為、ガソリンや軽油が入ってこなかったのだ。唯一在庫にあるものは国、自治体の指定した緊急車両のみが給油を許された。一部の店では限定的に販売を行った店もあったが、そういう店には昼夜を問わず給油待ちの車が長蛇の列を作っていた。

そんな中、東京電力の原子力発電所での爆発事故が起こる訳だが、我々福島県民にとって震災そして原発事故後は長く培われてきた「真面目さ」「素直さ」「勤勉さ」「忍耐強さ」等々などの県民性がいつの間にかどこからか崩れてきているようではない。復興を合言葉に莫大なお金や物が福島につき込まれ、それらを巡って県民ばかりか全国から大勢の人達がこの地に入って生活している。大災害がもたらす弊害とは、自然や物ばかりではなく目には見えない人の心や感性をも変えてしまうこともある恐ろしさなのだろうか。

[*本コラムは福島県の会員様にご寄稿いただきました]

自動車メーカー提供記事（日野自動車株式会社）

■ハイブリッド車駆動用バッテリーの回収、リサイクルに関するご協力のお願い

日野自動車は、使用済みになったハイブリッド車の駆動用バッテリーの回収と再資源化を推進しており、解体業者様に安全に取り外し・回収していただくための作業マニュアルを日野自動車のホームページ上に掲載しております。

車種、モデルによってバッテリーの搭載位置、取り外し方法等が異なりますので、詳細は日野自動車HPをご覧ください、マニュアルに従って適正に安全に作業を行ってください。

（日野自動車HP：http://www.hino.co.jp/service/hv_battery_recycle/index.html）

《PCU（パワーコントロールユニット）》

ハイブリッドシステムを支えるコンピューター、インバーター、そしてハイブリッド用バッテリーを集約したユニット。（※写真は日野デュトロ）



《日野のハイブリッド車》



▲ 小型トラック
日野デュトロハイブリッド



▲ 大型路線バス
日野ブルーリボンハイブリッド



◀ 大型観光バス
日野セレガハイブリッド

《作業する際の注意》

- ・作業は必ず絶縁手袋を着用して行ってください。
- ・サービスプラグを外す前に補機バッテリーのマイナス端子からケーブルを切り離してください。
- ・サービスプラグは、スターターキーLOCKでリレーが開いた上で、更に確実に期すため機械的に電源を遮断するものです。全ての作業に先立ってプラグを抜いて作業を行ってください。
- ・回路内にコンデンサーがあるため、サービスプラグを抜いてから高電圧ケーブルに触れるまで10分以上時間をとってください。
- ・絶縁被覆のない高電圧端子に触れるときには、テスターで電圧が0Vであることを確認してください。
- ・バスの屋根上での作業は高所作業になりますので、必ずヘルメットおよび安全帯を着用し、安全帯はHVユニット本体にあるハンガーに掛けてください。

鉄スクラップ最新情報

■ 2月第4週(20日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



2月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H 2	気配
関東	北関東	25,000 ~ 27,000	様子見
	南関東	25,000 ~ 27,000	様子見
名古屋		25,500 ~ 27,500	様子見
関西	大阪	25,500 ~ 27,000	様子見
	姫路	26,000 ~ 27,000	様子見

鉄スクラップ輸出市場、商談価格が強含み 日本側は安値警戒

日本の鉄スクラップ商談価格が値を戻している。貿易筋によると直近のベトナム向けH2商談価格は1トンあたりCFR270ドルどころとなっている。FOB換算値は27,000円を上回る水準にあり、輸出価格は強含みだ。

韓国中堅ミルとの商談価格も、2月第3週後半にH2がFOB27,000円台に達したもよう。17日にかけては大手・現代製鉄が日本玉のオファーを集めた。およそ1カ月半ぶりに反発した前回(同25,500円)から同社の提示価格が値上がりするのは必至という状況にある。

日本国内では国際相場の堅調感を背景に輸出価格の更なる上昇を指摘する声も多い。17日時点の関東H2浜値は25,500~26,000円中心。集荷を積極的に進めるシッパーでは26,500円どころの高値提示もあり、FOB27,000円とされる輸出商談価格よりも割高な水準に達している。このため日本側はオファー価格を引き上げ、安値成約を警戒している。

海外市場では、トルコ向け米国HMS価格が直近底値から50ドルほど回復しCFR280ドルを上回るなど、米国玉にも堅調感がある。また、東南アジア向けの中国産ビレット価格はジリ高気配があり一部CFR425~430ドルに達した。これらがアジア諸国の日本産鉄スクラップの購入状況に影響する可能性があり、動向が注目される。

【関東地区】市場に安値修正の動き 一部メーカー買値と湾岸浜値が上昇

関東地区の市況は、大勢としては様子見横ばいの中、安値修正の動きが出ている。海外の基調の強さから2月第3週は浜値が上伸したほか、2月17~18日にかけては入荷のペースが落ちているメーカー筋が500円がたの値上げ改定を実施するなど、一部ながら上昇の動きが見られた。H2炉前実勢価格は1トンあたり25,000~25,500円中心、高値26,000~27,000円見当。これに対し、H2浜値は25,500~26,000円中心で高値寄りの展開だ。

【東海地区】電炉の大半で2回の調整下げ

名古屋地区の電炉の大半は、2月15~17日にかけて500円がたの値下げを再度実施した。H2炉前実勢価格は25,500~26,500円どころ中心に、上値は27,500円どころ。特殊鋼の大手2社は新断の購入価格を2回の合計で2,000円がた下げている。一方で域内湾岸の集荷価格は2月第3週にかけて安値修正の動きが見られ、積み出港の一部は地場電炉実勢値の水準に寄せているもよう。ただ強気材料にも欠ける状況にあり、当面は様子見気配。

【関西地区】需給安定が続き模様眺めの展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として模様眺めが続いている。荷動きに目立った変化はなく、大勢が安定した入荷と在庫レベルを保ち、需給均衡化によって動意材料を欠く展開。しかし、アジアミルの指値がH2でFOB27,000円を超えてきたことで、市中からも市況先行きに期待を持つ声が徐々に聞かれ始めている。H2炉前実勢価格は25,500~26,000円、一部上値27,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は26,000~27,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月20日午前時点のもの)

行事予定

3月の主な予定

3月 1日(水)

- JIS開発事業
確定検査

3月 2日(木)

- 自動車リサイクル士
第17回 カリキュラムWG

3月 7日(火)

- 第4回 ブロック長会議

3月 8日(水)

- 第4回 未来部会

3月 9日(木)

- 関東ブロック会議

3月13日(月)

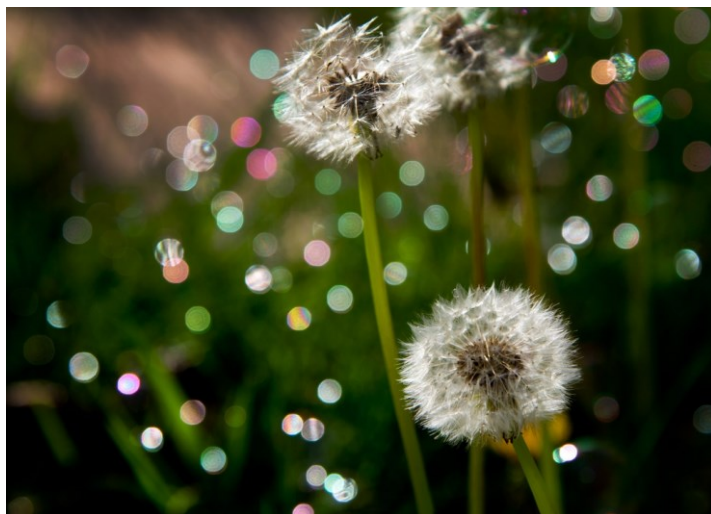
- 中部・北陸ブロック
会議

3月14日(火)

- 第11回 広報部会

3月22日(水)

- 第7回 常任役員会



お知らせ

会員数 (2017年2月末日時点)

総数 550社 / 会員 524社、賛助会員 26社

監査での優秀事業所公表 (自再協のお知らせ)

自動車再資源化協力機構ホームページにおいて
「2015年度車上作動処理監査における成績
優秀事業所」が公表されました。

<https://goo.gl/niQTeo> ←クリック！

こちらは全事業所が対象ではなく、あくまでも
自動車再資源化協力機構が2015年度に監査
を実施した事業所が対象となっています。

2015年度に監査を実施していない事業所は
今回、審査の対象にはなっていません。

“公表されなかった事業所 = 問題がある”と
いうことではありませんので、ご注意ください。



ELV機構Facebook

日々の活動の様子をタイムリーに、写真つきで
確認できます。(以下のURLをクリック！)

<https://www.facebook.com/JAERA.office/>

編集後記

リサイクル業界で業を営む我々には
決して忘れることの出来ない事件が豊島
問題です。1970年代に香川県小豆群
土庄町に属する豊島に産業廃棄物が次
から次へと持ち込まれ不法投棄されたの
です。その数量約56万トン。想像を絶
する量の廃棄物の投棄によって、自然
豊かな島は見る影もなく汚染されてしま
いました。当時、社会問題として取り上げ
られ我々リサイクル事業者の信頼も揺ら
ぎました。あれから40年経った現在も廃棄
物の処理作業は続いています。この度の
企画は中国・四国ブロックの古谷実行
委員長の「この現実をもっと多くの人達に
知ってもらいたい」という思いから実現しま
した。見学会に訪れた各人は大きな衝撃
を受けて帰途に着いたとのこと。今回の
ニュースレターでは、急遽、紙面構成を
変更し豊島を特集することにしました。
それは豊島問題という負の遺産を、我々
リサイクル業者は忘れることなく、語り
継がなければならないという責務からに
他なりません。この度は中国・四国ブロック
の皆様には大変お世話になりました。
この場を借りて御礼申し上げます。

(広報部会 部会長 永田 則男)